

あわくら 歴史街道

村内唯一の柗神社

【所在：谷口地区】

谷口の通称横路上の山林内に柗神社があります。祭神柗花真須美大神で、この神様は流行病等よりの庇護に靈驗あらたかと云うことで、明治39年（1906年）7月、時の神主野々上武雄、谷口部落の春名梅吉さん達が、勝田町宗掛（現美作市）に斉祀してあった柗神社のご分神を勧請して斉祀したのが始まりで、太平洋戦争中までは毎年春秋の二回祭典が行われ、大勢の参拝者で賑わい、子供相撲も盛んでした。戦後昭和30年代よりお祭りも復活して参道、境内の掃除等と併せて行い、細やかながら続いていましたが、近年は人口減や高齢化等により終息しています。今も境内には再建後もない小祠、神の依り代と見られる石柱、柗の木、土俵後等が残っています。

そもそも、当神社のいわれは、勝田町宗掛柗神社に由来するもので、この神社の祭神は大己貴命、素戔鳴命他三神がお祀りしてあると云われています。天保の頃宗掛部落に疫病が蔓延し、人口が半分位に減少したので、弘化3年（1846年）8月、時の神主井上薩摩、江見善兵衛の両氏が京都下鴨神社境内の柗神社より、ご分霊を勧請して祀ったところ、たちまち疫病も止まり、その後も発生することは無かったとの伝えから、谷口の先人も7、8月頃よく発生していたはやり病予防のために、宗掛まで足を運び分霊を斉祀されたものです。その後村内の個人医者、置業依存より、公的医療施設、医薬、薬剤、衛生管理などの進展に伴い、疫病等の罹患者は激減しました。

柗にまつわる行事として、大晦日（12月31日）年とり鯛の頭を炙り柗の小枝の先に突刺し、これを戸口の高い所に刺しておく伝統行事のあるのも魔除けのための祈りからでしょう。

昔は大病を患っても対応するだけの財力に乏しく、従って家計の上からも医者にかかることを忌避する面もあり、「祈れ葉」の言葉もあるように神頼みする向も多く、柗のように刺々しい葉をもつ植物の靈力にあやかる思想が生まれてきたものと推考しています。

（この風習は県内各所に伝わっています。）



人の動き 平成18年5月1日現在

- 人口 1,691人(-8)
- 4月中の移動
- 男 808人(-5) 出生 0人 死亡 1人
- 女 883人(-3) 転入 9人 転出 16人
- 世帯数 547戸(+2)

お悔やみ申し上げます

井上 貞子 さん (猪之部)	4月21日	89歳
金田 幸江 さん (大茅)	5月9日	87歳
井辺 きぬ子さん (猪之部)	5月10日	93歳
青木 伊作 さん (引谷)	5月16日	92歳

善意の窓 (村社会福祉協議会から) 平成18年4月20日～18年5月19日

おめでとうございます

引谷 小椋 角栄 様	長女蓮華様誕生内祝
猪之部 河野 雅俊 様	長男亮雅様誕生内祝
引谷 乾 真人 様	長男大夢様誕生内祝

お大事にしてください

谷口 山根 政秀 様	本人 退院内祝
大茅 岸本 幸市 様	本人 退院内祝
別府 林 武美 様	本人 退院内祝

ご冥福をお祈りします

大茅 金田 利昭 様	亡母 幸江様 香典返し
猪之部 井辺 静夫 様	亡母 きぬ子様香典返し

今月の村税

個人村県民税(第1期)

国民健康保険税(第1期)

納期限：6月30日

納期限にご注意いただき、納付をお願いいたします。また、口座振替の場合は残高確認など、よろしくお願いたします。

☆農業収支計算の準備は進んでいますか？
帳簿への記帳や領収書は大切に保存しましょう

☆医療費控除を受けられる方は、病院や薬局の領収書を大切に保存しましょう！

お問い合わせ先：西薬倉村役場総務企画課